

と思つて大森太夫の宿舎をお訪ねしたのでした。宿舎は府立第一高等女学校（今の鴨沂高等学校）でした。そこに行くのと受付の人が出て来たのです。事情を詳しく話し、この速記文字画帳を大森皇后宮太夫から皇后陛下の台覧に供していただくようにとお頼みして、画帳を預けて帰つたのです。

それから一日たち、二日たち、一週間、十日とたつても何も音沙汰がないのです。そのうち皇后陛下は東京にお帰りになられてしまわれたのです。あの受付の人が果たして大森太夫にあの画帳をお届けしたかどうか、あるいはしなかつたかも知れない、とにかく何日たつても何の音沙汰もないので、これもやつぱりだめだったのだらうと思つていたのでした。

ところが二か月、三か月もたつた後、もう年末のころでした。突然一通の手紙が宮内省から来たのです。早速開いて見ると「皇后陛下のご台覧に供したのでお返しする」と丁寧に書いてあり、画帳は送り返して来たのです。献上したのではないからお返しになつたわけですが、これで直接速記教育の台覧の榮に浴することはできなかつたが、速記文字画帳が台覧の榮に浴したことは、非常に嬉しく思つたのでした。これで皇室に対して、著書や速記文字画帳を献上する資格ができたのか、その後大正十四年五月速記文字画帳を摂政宮殿下（昭和天皇）に献上し、また昭和三年四月には、著書を天皇陛下、皇后陛下、皇太后陛下の三陛下に献上の榮に浴したのでした。献上した著書には、元総理大臣清浦奎吾伯爵に「廣業」という題字、奈良武次大將には「文明の先駆」という題字を書いていたのでした。著書の献上はなかなか難しい